



# 日本赤十字九州国際看護大学

The Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing & Graduate School

キャンパス通信 第2号  
2011年10月-2012年3月

ひとりを看る目、その目を世界へ。



## 1年生

### 模擬患者にアセスメントをしました



後期科目のひとつである「フィジカルアセスメント」で、地域に住んでいる方に協力してもらい、総合演習を行いました。普段は、学生同士で行っている演習ですが、地域の方を模擬患者さんとしてアセスメントするのは初めてなので上手くやれるか心配で緊張もしましたが、患者さんに協力してもらい、学んできたことを発揮することができました。今回の演習で、さらに技術と理論を深めていく必要性を認識しました。また、患者さんが看護師に安心して見てもらうために、技術や知識だけを身につけるのではなく、患者さんに笑顔で対応することや、視線を患者さんに合わせる大切ということもわかりました。

記：1年 山本 志保

## 2年生

### 病院実習が始まりました

2年生では、医療施設での実習と福祉施設での実習がありました。9月の医療施設実習では、2週間一人の患者さんを受け持ち、基本的には体温・血圧などのバイタルサインの測定、清拭、車いすへの移乗・移送を行いました。机上の勉強との違いを実感すると同時に、1年次に修得した専門基礎や教養系学問がとても大切だということを実感するいい機会にもなりました。また、実習を通して、看護師という職業がどれほど素晴らしい、やりがいがあり、またどれほど大変かということを目で見て感じる事が出来ました。

記：2年 吉岡 小百合



## 3年生

### 国家試験対策が本格化しています



3年次の後期では精神・地域看護学、成育看護学、クリティカルケア、在宅看護でのレベルⅣ実習が終わり、4年次に向けたレベルⅤ実習の準備、卒業研究が始まりました。レベルⅤ実習は、最後の実習でより高い専門性が問われます。それに向けてこれまでの学習や実習を振り返り、充実したものにしていきたいです。さらに、一年後に迫った国家試験に向けて早めの対策が始まりました。国家試験模試を解き、苦手分野を分析し、それに基づいて先生方の協力を得て勉強会を行いました。一年後の全員合格のために、みんなで協力して勉強を頑張っていきたいと思えます。

記：3年 岩橋 貞子

## 4年生

### 卒業研究論文をまとめました

大学に入学して早いもので4年が経ちます。大学生活では、友人、大学の先生方、実習で出会う患者さんなど多くの方々とたくさんのお会いがありました。これらはすべて、貴重な経験であり、大学生活での大事な思い出です。大学生活の集大成である卒業研究では、各自が選んだテーマの研究論文を進めています。私の卒業研究では、父親の育児参加に対する育児支援を検討しています。大学4年間で培った学びや、卒業研究で取り組んだことなどを臨床の場で活かし、「男性看護師としてできることは何か」ということを考えていき、専門職として多くの方々を支えていきたいと思っています。

記：4年 安永一樹



## ■キャンパス日記から

10月30日

### 「アスティ祭」で『健康相談』『公開講座』を実施



10月30日に、「アスティ祭」(主催：リサーチパーク協議会)が行われ、本学は、大学祭「遥碧祭」を同時開催すると共に、地域の方々を対象に『健康相談』『公開講座』を行い、約200名の来場を得ました。『健康相談』では、身長・体重・体脂肪・骨密度・血圧の5項目を測定した後、医師や看護師の資格を持つ教員が測定値から一人ひとりの現在の健康状態を分析して説明し、健康管理に役立つ最新の調査・研究データに基づいたアドバイスを行いました。『公開講座』では、赤十字病院の看護部長として長年人材育成に力を注いできた寺門とも子教授が「ずばり分析！看護の現場：なぜ新人ナースは辞めるのか」と題して、新人看護師たちが初めての現場(病院)で感じていることや、その背景にある要因について具体的に分析し、その現状を踏まえた新人たちへの指導方法等について

紹介しました。さらに、社会福祉分野が専門である増田公香教授が「ユニクロと障害をもつ人たち」と題して講演を行いました。日本を代表するブランドに成長した「ユニクロ」で全社的に推進される障害者雇用対策を例に、日本でも少しずつ障害者をとりまく環境が変化してきたことを紹介しました。毎年大盛況となる『健康相談』、日ごろの研究・教育の成果を地域の方々とも共有できる『公開講座』は、教職員にとってもやりがいを感じる活動です。地域の方々との貴重な交流の機会として、今後も継続していきたいと思えます。

記：地域交流委員会

11月11日

### 修士論文中間報告会で大学院生が論文を発表



11月11日に、5名の院生が修士論文中間報告会を行いました。中間報告会の目的は、指導教員以外の教員から指導を受けることによって質の高い修士論文の作成を促すことにあります。また、最終発表を前に、プレゼンテーション能力を高める機会にもなります。発表を終えた院生からは、「結果を出し、仮説を検証していくプロセスを人に伝えることの難しさを実感しました。」「第三者の視点でご意見をいただけたことで気づくことができていなかった点や課題が明確になりました。今後、分析を進めていく上で重要な視点としていきます。」などの意見が寄せられました。発表者の院生の皆さんには、中間報告会での学びを活かし、2月の修士論文審査・最終試験に向けて一層の努力を期待いたします。

記：研究科長 佐藤珠美

12月10日

### アグリスクール「たべものと命を考えるシンポジウム」で「看護」「食」「農」についての体験を発表



12月10日、福岡市天神の都久志会館に於いて、「福岡の食を！農業を！私たちが元気にしよう!!」と題し、学生がつくる「たべものと命を考えるシンポジウム」が開催され、本学からもアグリスクールの集大成として、実行委員の学生が参加しました。

シンポジウム第1部の基調講演の講師には、福島で農家を営んでおられる遠藤氏をお招きし、『大震災・原発事故から見てきた食料と農業、そして私たちの役割』というお話をいただきました。最後に私たちにできること・してほしいことはないか、という問いに対し遠藤氏が繰り返し言われた「福島に来てほしい。来て現状を見てほしい。」という言葉が一番印象に残っています。

第2部では、農業や食に関する体験をした学生5人によるパネ

ルディスカッションが行われました。それぞれの視点から「農業」や「食」に対する意見発表が行われました。コーディネーターとして堀井聡子助手、パネリストとして3年の内田が参加しました。それぞれ、育ってきた環境や将来の目標も違う学生ですが、こんなにも食や農業について考えていることを知り喜びを感じました。

人間は死ぬまで何かを食べて生きていかなければなりません。私たち1人1人が、もう少し食べるという行動に真摯になって、食べ物やその向こう側にある農業に関心を持って生きていくべきではないのだろうか、と気づかされたシンポジウムでした。

記：3年 内田安貴

※We're in Media (P.6)で紹介記事

1月18日

## 第2回英語課外コース修了式を開催



1月18日の昼休み、10～12月にかけて実施された英語課外コースの修了式を行いました。英語担当の先生方が見守られる中、喜多学長から一人一人に修了証とプレゼント（図書券）が手渡されました。学生たちは、思いがけないご褒美に大喜びでした。これらの英語課外コースは、英語担当の先生方のご尽力によって、昼休みに開催されています。易しい新聞記事の読解レベル（基礎コース）から今日的課題について意見交換や議論を行うための技術を学ぶ上級コースまで様々あって、今回表彰された学生の中には、単位認定のコースと課外コースを組み合わせた最大4コースを修了し、同じ4つのご褒美をゲットした人もいます。

春休みのニュージーランド短期留学参加者やカンボジア研修の参加者も含まれており、それぞれの努力が、訪問先の異文化社会においてのコミュニケーションに大いに活用されることを期待したいと思います。

また、この記事を見て、本格的に外国語学習を始めたい、英語のレベルアップを図ろうと奮起する学生が増えることも期待します。

記：学務課

3月13日

## 卒業式・学位授与式・修了式を挙行政



3月13日に「平成23年度卒業式・学位授与式・修了式」を挙行政しました。

今年は、学部生114名、大学院生5名、認定看護師教育課程研修生22名が所定の課程を終え、無事、晴れの日を迎えました。卒業生・修了生は、1人ひとり壇上に登壇し、喜多学長から修了証書・学位記を受け取りました。答辞として、卒業生代表 眞鍋知里さんと修了生代表 栗山亜矢さんが、思い出を振り返りながらお世話になった方々への感謝の言葉を述べると、卒業生・修了生は、感極まって涙する場面もありました。

喜多学長は、式辞の中で、近代看護の祖であるナイチンゲールと「学問のすすめ」を著した福沢諭吉が示した生き方について触れ、「混沌とした時代だからこそ、立ちすくむことなく新たな保健分野の舵取りになってください。さらに学びが必要と感じたときは、大学はいつでも帰りを待っています。」と述べられました。

この日、式典が終わってからも、母校となった大学校舎を背景に、華やかな袴姿の学部生やアカデミック・ガウンに身を包んだ修了生が、互いに写真を撮り合って喜ぶ姿がありました。

記：総務課

## 喜多悦子学長「第10回福岡県男女共同参画表彰」(女性の先駆的活動部門)を受賞



喜多悦子学長が「第10回福岡県男女共同参画表彰」を受賞しました。この表彰は、男女共同参画社会の実現に向けて、その取組みが県民の模範となるものとして、地域や職域等で活動する個人や団体に対して、福岡県が表彰するものです。11月29日に、春日市クローバープラザで表彰式が行われ、喜多学長も出席しました。

日本人で初めて紛争地支援のためパキスタンに派遣されて以来、ユニセフやWHOに在籍し、世界の人道援助活動に従事した喜多学長。70カ国以上において医療協力に携わった経験を活かして、平成17年度から本学の学長として看護専門家の育成に取り組んでいます。

このような実績が広く認められ、今回の受賞となりました。

## ■海外研修

2月25日～3月4日

### カンボジア研修に参加しました



「国際保健・看護Ⅱ」科目の一環として実施したカンボジア研修に、15名の学生が参加しました。研修の前半では、プノンペン市内（王宮、国立博物館、トゥールスレン〈刑務所〉、キリングフィールド）を見学し、JICAカンボジア事務所、WHO（世界保健機構）カンボジア事務所、国立母子保健センター、カンボジア赤十字（本社、プノンベン支部）、UNFPA（国連人口基金）カンボジア事務所を視察訪問しました。後半ではプノンベンからバスで2時間以上離れたコンボンチャム州にある州立病院、ヘルスセンター、トレーニングセンター（看護師・助産師・歯科看護師）、Laang Leu村等を訪問しました。また、カンボジアで20年以上活動を続けるシャンティ国際ボランティア会事務所でも事業内容の説明を受けた後、実際に小学校での活動の様子も見学しました。研修の最後には、アンコール遺跡群等を訪れました。研修を終え、現地評価会を行いました。訪問先で学んだこと、発展著しい都市と未開発の農村部の現状を目で見て、肌で感じたこと等を今後の学習にどう生かせるか、感想や意見を学生一人ひとりがしっかりと述べることができました。

## ■ランチョン・ミーティング

第4回 10月26日

### ロサンゼルス海外研修報告

昨年3月に、ロサンゼルスへの研修旅行に参加した学生が研修内容を報告しました。研修では、授業の課題として読んだ*The Man Who Swam into History*の著者で名門カリフォルニア工科大学（カルテック）の歴史学教授であるR.A. Rosenstone博士に面会し、UCLA大学病院や美術館等を見学。最終日にはディズニーランドを訪れました。以下は、研修に参加した学生の感想の一部です。「UCLA病院の施設・システムは、病院であることを感じさせないような寛げる環境が整備されている点、業務のためにハイテクとローテクが目的に応じて使い分けられている点が、素晴らしいと思った。」「歴史や日本文化などについての広い知識を持たなければいけないと気づいた。」「ギャンブルハウスというジャポニズムの影響を受けた建物を見て、19-20世紀の欧米で日本文化への関心が高かったことを知り、自文化について知らないのは問題だと思った。」

また、この報告後、「今後、授業の中で理論を教わったり、先生の意見を聞いたりする場合に、自分はそれをどう捉えるのか、掘り下げて考える習慣をつけたいと思った。」という感想もありました。

報告者 2年：谷さおり、山崎衣織、神岡恵、水口佳名子、吉田美穂、樋口友紀、馬場彩香 4年：松田由紀、眞鍋知里、光永あすさ



第5回 11月9日

### Usman Ali 氏 「Health care in Pakistan Village ~パキスタン・イスラム共和国パンジャブ州ベハリ県におけるヘルスケア~」



パキスタン・イスラム共和国のパンジャブ州、ベハリ県農業委員会代表 Usman Ali氏を講師に招き、ご講演いただきました。Ali氏は、米国で経営学修士(MBA)を取得後、世界銀行、USAID、NAFTAなど人道支援と開発に関わる国際機関コンサルタントなどの活動に携わっています。Ali氏は、パキスタンの人口動態、社会経済指標を概括した後、ベハリ県の経済発展、教育と健康状態について述べられ、女性の妊娠、出産についても言及されました。

「イスラム教徒の場合、親が結婚相手を決めるのが一般的だが、若い女性の早期結婚の要因の一つは経済状況である。女性の地位が著しく低く、女性は深刻な健康問題を抱えている。2008年の妊産婦死亡率は(出生数10万件あた)201だが、妊婦検診受診率(最低4回)は12%、避妊普及率8%を超えていない。20~24歳の女性人口の31%は20歳になる前に妊娠、出産経験をしている。ティーンエージャーの妊娠、出産は女性の健康に影響を与えるだけでなく、充分

に教育を受けていない若すぎる母親には子育ては困難であって、子どもの健康にも影響を与えると考えられる。」

発展途上国の社会経済的指標と健康状態との関連を考える貴重なご講演でした。

## みんなの広場

素敵なキャンパスライフを送っている在學生に、本学の魅力、看護の魅力を探ねました。



**眞角 帆南さん** 2011年入学 福岡県・新宮高校出身

一年前の今頃、本学への入学を控え、さまざまな期待が込み上げていたのを今でもはっきりと覚えています。ようやく自分のやりたい分野の勉強ができることが楽しみでもあり、一方で「看護大学は勉強が大変だ」と、たくさんの人から聞いていたので不安もありました。

この一年を振り返ってみると、楽しさ5割、きつさ5割だったように思います。でも本学に入ったことを後悔したことは一度もなく、むしろ入学して良かったと思うことばかりでした。

授業の内容は、高校生とは一変するので理解するのが大変でしたが、同じ夢や目標を持つ友人がたくさんいることが何よりの支えになり乗り越えることができました。そういった面もあり、改めて友人の大切さにも気づくことができた一年だったと思います。

二年生になれば、実習も入ってくるのでこの一年以上に苦労することも多いと思いますが、みんなで支え合って、充実した毎を送りたいです。

**大楠 顕也さん** 2010年入学 福岡県・武蔵台高校出身

私は将来、家族や親しい人が何かしらの病気に罹ったとき、少しでも力になりたいと考えたことから看護師になろうと決意しました。

この大学に入り看護についての専門的な知識を学ぶまでは、看護師はただ医師の診断に基づいてケアを行っていると考えていました。しかし看護師は「どうすれば患者の安全を確保することができるのか」「患者にとって今の治療・援助は適切なのか」等、医師に指示されて行動するのではなく、常に自分で考え行動する必要があることを学びました。

大学生活については、看護学科ということもあって男子は比較的少数ですが、サークルや演習を通して男女問わず楽しい毎日を過ごしています。この大学は「国際」を冠している通り、世界中で活躍している先生方もいます。そのため、先生方の実体験を基にした、他の大学では聴くことができないような貴重な講義を受けることができます。

この大学の講義や演習で学んだことを身につけ、社会に必要とされる看護職者になりたいです。



## 研究室訪問

楽しい授業を展開してくださる先生方の素顔を紹介します。



研究科長／佐藤 珠美 教授

**Q:先生は普段どのような研究をされているのですか？**

A:現在、妊産婦の排尿ケアの問題に取り組んでいます。以前は、中高年女性の健康問題を解決するためのグループケアを開発し、健康支援ボランティアを養成していました。その時のボランティアの皆さんから中高年世代よりも産後・育児期の女性を対象にした研究に取り組んで欲しいとの要望を受け、方向を変えました。

**Q:学外での活動について教えてください。**

A:上記で、養成しました健康支援ボランティアや看護学生ボランティアと一緒に、産後、育児期の女性の健康支援を行っています。内容は、月1回の授乳相談や産後の心身の回復のためのバランスボール講座です。他に、年に3~4回、学部生や院生と一緒に沐浴教室（宗像市の委託事業）を行っています。

**Q:どんな大学生でしたか？**

A:助産師として働きながら大学に通いました。昼間の勤務後、大学で授業を受け、深夜勤務をすること、の繰り返しでした。肉体的には大変でしたが、授業中の教師の言葉を聞き逃さないように必死でした。学ぶことが楽しいと思った4年間でした。

**Q:在学生、そして受験生へのメッセージをお願いします。**

A:教養科目は一見無駄に思えるかもしれませんが、その学びが後でボディブローのように効いてきます。大学では教えを待つのではなく、自ら学び考える姿勢が求められています。

# We're in Media

新聞に掲載された記事を集めました。



1月20日(金) 西日本新聞掲載  
「たべものと命を考えるシンポジウム」  
※キャンパス日記から (P.2~P.3)参照

▽公開講座「災害医療の歴史と今後の課題」  
12日午前10時、宗像市の日本赤十字九州国際看護大学。日本集団災害医学会理事長の山本保博医師が、大災害時の救援活動の課題を紹介する。

3月10日(土) 西日本新聞掲載  
東日本大震災から1年 各地でイベントを実施  
特別公開講座『災害医療の歴史と今後の課題』を開催



10月1日(金) 西日本新聞掲載  
映画 「僕たちは世界を変えることができない」公開記念トーク  
俳優 向井理・原作者 葉田甲太・喜多学長

# Facebook

公式Facebookページを開設しました。

日々のできごとや教員インタビュー、公式HP新着情報などを掲載しています。HPではお伝えできない、フェイスブックならではのHOTな話題が盛りだくさんです！  
写真をまとめた「アルバム」も、是非、チェックしてみてください。  
みなさまの「いいね!!」&「シェア」をお待ちしています。  
「日本赤十字九州国際看護大学」で検索

大学専用 Facebook <http://is.gd/dXk2TV>  
学長専用 President E.Kita <http://is.gd/Xsk34s>





日本赤十字九州国際看護大学

[www.jrckicn.ac.jp](http://www.jrckicn.ac.jp)

発行 日本赤十字九州国際看護大学 広報委員会  
〒811-4157 福岡県宗像市アスティ1丁目1番地